

パンタナール通信

一般社団法人 南北米福地開発協会 会報 2015年9月1日 144号

世界平和地球村の建設と自然環境の保護



各々国旗を手に、11ヶ国から来た青年ボランティアチームは、優れた主体性と協調性を見せた。(7月18日、レダ基地公館前庭)

国際奉仕チームが見せた主体性と協調性!

先号でお伝えした、国際ボランティアチームの続報です。このプログラムは、第一回“Pathways to a Sustainable Future Project”(持続可能な未来への進路プロジェクト)として、七月六日から二十一日にかけて実行され、11ヶ国から36名のボランティアが参加しました。主催したのは、米国に国際事務局を置くUniversal Peace Federation (UPF) および South & North America Sustainable Development World Peace USA Corporation (邦訳未定) です。

ボランティアたちはそれぞれの国から、アスンシオンに集合し、オリエンテーションを受けて班を編成しました。まずメノール教団の築いた内陸の都市ローマ・プラタにバスで移動。開拓の歴史を学んで感動した隊員の書いた感想文は、後にABC新聞社を通し、ラジオ放送で朗読されました。その後、予想外の大雨で道路を走れなかったため、小型プロペラ機で四名ずつレダ基地にピストン輸送しました。先住民の村エスペランサでは、校舎の修理、教室の机20台の贈呈、そして生徒たちと文化・スポーツ交流、ニームの植樹などで奉仕しました。ここでは特に子供たちとの出会いがボランティアたちの心に深く刻まれました。またペレス校長は、教師、父母、生徒を代表して、ボランティアと南北米福地開発財団およびそのすべての支援者たちに、心のこもった感謝の言葉を述べました。(三面に謝辞全文)

レダ基地に戻り、中田所長より開拓の理念と歴史を学び、藪の整地作業などで手にマメをつくりながら開墾の苦労を実感。さらに芋掘り、乗馬、釣り、動物とのふれあいや体験しました。レダの過酷な環境下で、荒廃していた土地を福地化して来た諸先輩の開拓精神とその成果に感動し、未来へのクリアな希望を描けるようになったと語っています。アスンシオンに戻って老人ホームを慰問したとき、偶然居合わせたフランコ前大統領夫人と出会いました。青年たちは歌やダンスなどで思いを表現し、お年寄りたちにとっても喜んでもらい、同夫人の胸を打ちました。(二面に写真)



乳しぼり体験、手ほどき中。



豚ランドの餌やりタイム、鐘の音に大集合。



可愛く見えるか、美味しく見えるか？



歌とギターでエスペランサの村人たちを魅了。



村人同然に慕われる。



僕の新しい弟です、よろしく。



藪を切り開いて開拓の苦労を迫体験、木にトゲ、手にマメ。



校舎の壁にペンキを塗る、そして絵を描く。



タロイモの根はこんなに深いよね。



タロイモの水田で収穫作業 芋は洗って皮を剥く。



固い土に植樹の穴を掘る。

ボランティアたちの感想文より (抜粋)

● エスペランサ村の人々の純粋さに驚きました！豊かな物質世界に惑わされない、ピュアな心に触れました。マリア（オペラ歌手研修生）が披露した歌声に村人がジッと聞き入っていたの見て、天国を感じました！別れには何故か涙が止まりませんでした。支援してくれた両親に感謝したいです。（女・17）

● エスペランサ村で子供たちと交わって、今まで味わったことのない感覚、既成概念にとらわれない体験をしました。レダで少しの労働に携わり、過酷な開拓の苦勞を知り、日本の先輩がそれを16年も続けて来たことに驚きます。他のメンバーも一度は行くべきと思います。ここには未来がある！（女・31）

● エスペランサの子供たちは、私を無条件に受け入れてくれました。あの子たちとのふれあいを通し、私はかつてなかったほど深く神の愛を経験しました。神様の愛が私にとってとてもリアルになったのです。（女・18）

● 子供たちは、私たち一人ひとりに、あたかも村の一員であるかのように話しかけてきました。私にとっては厳しい環境に見える地で心豊かに生きていく姿を見て、私は自分の国での生活に今まで以上に感謝できるようになりました。

中田先生は、私たちをいつも「王子様、王女様」と呼ばれました。それは、私たちに希望を持っておられると同時に、伝統精神を未来に伝えて欲しいのだということを感じました。（女・23）

● 海外で兄弟姉妹たちとともに奉仕活動をするのは、とても心が満たされます。僕の心を最も強く打ったのは、驚愕すべき環境下で、日本のお兄さんたちが、人生を捧げて地獄を天国に変える仕事をしていることでした。（男・26）

エスペランサ学校長から感謝状

エスペランサ、二〇一五年七月
南北米福地開発財団の皆様へ

教育を通してその人を変え、生活の向上を目指すことはエスペランサにおけるこの教育機関で職につくに当たって、教育者として与えられた使命の一つであります。

しかしながら、この挑戦は簡単な任務ではありません。また私たち教師だけで出来ることではありません。私たちの国、特に私たちの地域の子供、青年、大人の教育の質に責任を持つとする様々な機関の援助がなければ出来ません。

しかしながら、神様の申し召しによっていつも南北米福地開発財団が変わりなく私たちの支えとなつて下さり、社会に対するその尊い献身と責任の姿勢を持つて、私たちのコミュニティにおいて教育の強化の目的のためにあらゆる種類の援助を惜しみなくしてくださいました。

財団がこの学校のためになされた援助は、教育や学習の良きプロセスの向上のために図りきれない価値をもたらしました。たとえば、広くて快適な三つの教室のあるこのレンガ造りの建物を今日使うことが出来るのも財団のおかげです。また、今回、この学校をとて美しく改装してくださいました。学校の内外の塗装を新しくしてください、学校の校庭を金網で完全に囲ってください、その他にも多くの内容を財団の人たちはしてくださいました。



ペレス校長 (44)

それ故、学校に関わるもの一同、校長、教師一同、父兄一同、生徒一同、皆さんの非常に尊く価値ある援助に対して心より感謝いたします。

また、私たちの心の真底から財団の理事並びに会員の方々、世界のさまざまな場所から援助をするために来てくださったボランティアの皆様、この尊いプロジェクトを企画、実行してくださった責任者の皆様、またエスペランサのインディヘナのコミュニティの教育の質の向上のために献身的に援助してくださいさるすべての人々に感謝致します。

私たちの心の奥底から南北米福地開発財団に常に神様の恵みがあることをお祈りいたします。そして教育によって人を変え生活の向上を目指すというエスペランサにおける使命の遂行に変わりなく支援してくださいさることをお祈りしながら、感謝を込めて。

エスペランサ学校長

パブロ アルガーニャ ペレス

(注：南北米福地開発財団は、パラグアイ共和国における当会の法人登録名です。)

地球の未来へ希望を共有する研修会

八月一日、川崎市の大山街道ふるさと館において第八回の一日研修会を、開催し、55名が参加しました。

プログラムは、

映像による活動の概要と報告、

飯野貞夫理事による「提唱者の思想と私たち」

レダ開拓史」、

地球の緑を守る会の戸石文夫理事による「ここ

まで来た！地球環境問題」、

国際協力青年奉仕隊員として活動



地球環境問題を説明する戸石講師 (8月1日)

映像による活動の概要と報告、飯野貞夫理事による「提唱者の思想と私たち」レダ開拓史」、地球の緑を守る会の戸石文夫理事による「ここまで来た！地球環境問題」、国際協力青年奉仕隊員として活動

した和田泰徳さんによる体験的プレゼンテーション、柴沼邦彦理事による「パラグアイ・レダにおける理想郷建設」そして最後に三人の講師を囲んでグループごとに懇親会が持たれ、質疑応答と意見交換が活発になされました。

当会の16年を超える歩みを通して得られた経験・知識・様々の成果などは、南米のみならず日本と世界の資産として、共有されるべきもので、今後も着実に継続してまいります。今回は、十一月二十一日(土)、代々木の国立オリンピック記念青少年総合センターで開催の予定です。(四面に参加者の感想文)



グループごとの懇親会で、親しく意見交換する参加者たち (8月1日)

第八回パンタナー ル一日研修会参加 者の感想文より

(八月一日、研修会
終了時に提出)

●先輩の方々の開拓
精神に心より感謝申
し上げます。未来に希望をつなげてくださった
この精誠をありがとうございます。久しぶりに
とても新鮮な気持ちを味わいました。(58歳、女)

●やっぱりレダの魅力は尋常じゃない。自然の
美しさはもちろん、レダの地に込められた希望
の光を感じてどうしようも
ない。まだその希望の光は
はつきりとは見えていない
けれども途方もない可能性
に心の衝動を禁じ得ないほ
どだ。レダは「南米のへそ
であり、子宮である。だか
ら南米全体を生かす役割が
ある」といった言葉や「自
然を保護し、最高の観光地
及び教育現場になる」といっ
た言葉を聞いてしまったら、
どんなに大変でも一生懸命



飯野貞夫講師



柴沼邦彦講師

に勉強し、努
力して貢献し
たいという思
いが込み上げ
てくる。(23
歳、男、第13
回青年奉仕隊
参加者)

●何もないところから少数人数で可能性のあふれ
る地にしたのはすごいと思いました。私もこの
ような活動を通して世界や人の役に立つ人間に
なりたいと思いました。(22歳、男)

第十五回国際協力青年奉仕隊活動へのこ 支援を、引き続きお願い致します！

今年の第十五回奉仕隊一行は、八月二十五日
に羽田空港より出発しました。活動地は、パン
タナー地域のバイア・ネグラです。先に現地を
視察したスタッフによれば、学校舎や机・椅子
の修理のほか、この地方唯一の小さな病院も修
繕が滞っています。院長は若い女性医師で、海
外留学後、故郷に戻って貧しい医療環境にある
人々に献身的に尽くしています。

私たちが派遣する青年奉仕隊も、できるだけ
多くの住民に奉仕できるよう、引き続きご支援
をお願い致します。皆様が使い残された、はが
き、年賀はがき、書き損じはがき、未使用の切
手などを下記の事務局あてお送りください。ま
た支援金も感謝してお受けいたします。

支援金送り先 郵便口座 記号 一〇一八〇
番号 七七八八〇四七一 南北米福地開発協会



和田泰徳さんは第13回青年
奉仕隊での体験を報告。

会員種別

- ◆ 会員一口1000円/月 ※口数は申込者が申告
- ◆ 特別会員一口1万円/月 ※口数は申込者が申告
- ◆ 法人会員一口1万円/月 ※口数は申込者が申告

会費は、毎月の引き落とし方式です。
会費振替用口座 ゆうちょ銀行 **00290-5-113072**
加入者名：シャ) 南北米福地開発協会

入会申し込みと同時に手続きをお願い申し上げます。それ
が確認でき次第、会員番号を確定し、ご案内いたします。

- ♥ 入会申込書は、左記の事務局にお申し込みください。
また、ホームページからもダウンロードできます。

PDF形式 <http://asd-nsa.com/nyuukai.pdf>

Word形式 <http://asd-nsa.com/nyuukai.docx>

一般社団法人 南北米福地開発協会事務局

〒213-0001

神奈川県川崎市高津区

溝口3-11-15

岩崎ビル4F

電話: 044-829-2821

FAX: 044-829-2820

ゆうちょ銀行 (旧一般会員会費納入)

記号10280 番号61349751

一般社団法人 南北米福地開発協会

メールアドレスが変わっております！

(新) E-メール: office@asd-nsa.com

(新) ホームページ: <http://asd-nsa.com>